

等又直立し居る時には足に一種の様子を附する等成人の動作と全く異なる所なきものなり、歐米のうち殊に佛英米の順序に此種の兒童多く、獨逸露西亞に至りては甚だ少なし我國に於ては東京の中央にも決して未だ斯の如き兒童は存せざるなり、歐米の子供の繪畫か實に能く子供に愛らしさを寫したるを以て、歐米の子供か全體斯の如く子供然たる愛らしき者と思ふは大なる誤なり

▲子供について獨佛の差 一國の盛衰は其國民か子供を厄介物にするとせざるとの状態によつてトする事を得べし、獨逸にては先つ一般の風習として四人又は五人の子供を有するは人たるもの、普通の事となし、それ以上の多くの子供を壯健に養育するを頗る自慢とす、然るに佛國にては寧ろ子供のなからんを希望し或はたい一人或は二人

の子供を有するを以て一般となしそれ以上の子供を養育するは一般の人の最も好まざる所なり、以つて此兩國の盛衰を知るを得べし

菜食の功

▲ベルツ博士の菜食論 醫學の泰斗として殊に我國民の體質に就て研究を遂げたるベルツ博士は數年前よりして日本歩兵は歐洲最良の歩兵よりも優勝を占む可きとを確信し、且つ其理由を菜食に歸したり、博士の説に依れば肉食する人は窒素分過多なる爲め、耐久力を有せず、現に駑足又は登山等に就て日本人の疲勞せざるは菜食の賜なりと、博士は北清事變の際には自己の所信を確むる好時機とし、仔細に觀察したるが、歐洲兵は一として日本歩兵の耐久力に抵抗し得るものなかりしと

云ふ、又今回の日露交戦に際しても博士は日本歩兵の必ず露國歩兵よりも體質上より優勝なるべきを豫言し居たりと、因に博士は赤城登山を試むるに際し數日間菜食して其耐久力を自驗したる事あり云ふ

編輯局よの

▲春すぎ夏去り秋來つて、遂に年の暮は來り申候讀者諸姉諸君、いよく御清適、先は目出度存じ候、何がさて、筆硯多忙、思ひなからも御無音にうらすぎ、其申譯までに、久々にて一筆啓上仕り候。

▲新聞紙にて既に御承知の事と存じ候へども、女子高等師範學校生徒監、山川二葉刀自には、先般辭職致され候。御存じの如く、刀自は明治十年よ

り、生徒監として、今日に至るまで其間二十七年の久しき、寄宿舎訓練の任に當られ、詢々として倦まず撓まず、身を以て生徒を率ゐ、實に本邦女子訓練の範を與へられ候功は決して没すべからず、今回御老體の故を以て職を辭せられ候に付き、全校長も深く惜まれ候由に候へども、事情致し方なかり候にや遂に、其職を免せらるゝに至り候、而して其際特旨を以て位二級進められ、尙は先月、

▲全校教授 飯盛氏の勅任に榮進せられ候に付き、刀自の送別會と兼ねて祝賀の會を、職員一同にて開かれ候時分校長はかねて久保田文部大臣より、刀自に向つて送られし感謝狀を、朗讀致され候由。左に其書狀を寫して御覽に入れ候。

貴下が明治十年初めて職を女子高等師範學校舎